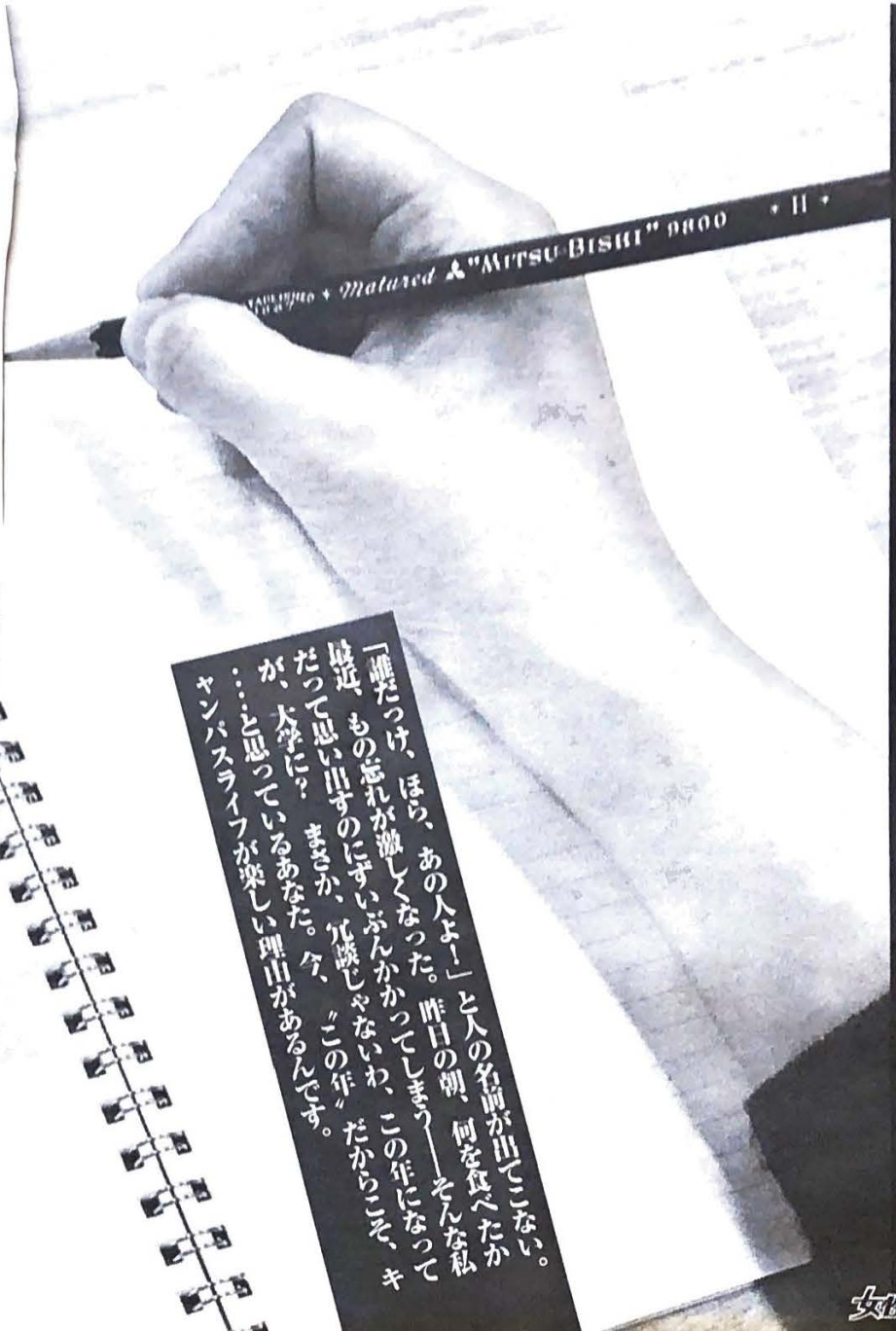


50才からの キャンパス ライフ

「大学で学ぶ」って 気持ちがいい

源氏物語からインド哲学まで!
全国有名大学公開講座の
選び方、学び方



「誰だっけ、ほら、あの人よー」と人の名前が出てこない。
最近、もの忘れが激しくなった。昨日の朝、何を食べたか
だって思い出すのに、ぶんかかってしまう。この年になって、キ
ャンパスライフが楽しい理由があるんです。

子供の巣立ち、夫の定年、親の介護、そしてこれからの自分
人生、老け込むには早すぎる!

しみです」

「一方で「なかなか踏み込めない」とため息をつく同世代もいる。森田洋子さん（52才・仮名）もその一人だ。

「4年ほど前に1度、友達に誘われて姜尚中さんの講義に行きました。「あのインテリのイケメンを見に行こう」ってミーハー心で（笑）。イケメンぶりはもちろん、話もすく面白くて、いざいざ前

でかぶりつきでした。姜尚中さんの講義が素晴らしいと思ったから大学のキャンパスにいた自分もいて、すぐに他の講義も受けてみたいな、と思ったんです。けれど両方の親の介護もあるし、夫は興味がないから、私ばかり家をあけるのもちよっと遠慮してしま

う。周りの友達とも「いつかまた行けたらいいね」と言いつつ合ってますが、なかなかねえ……」

一方、60才が近づくと、仕事や子育てがひと段落し、リタイア後の生活が見えてくる。そんなとき、「ふと先の人生を考えると」

たとき、愕然としましたね。私くらの年代の女性で働き続けている人は、会社でもそれなりの立場になっているのですが、だからこそそれなりの矜持もあるわけですよ。でも、一歩会社の外に出てしまつと、私のような女性退職者は、正直厄介だと思われてます。まだまだ気持ちも体力もありませんが、突き詰めて考えたいと、私にできることとして、スパーのレジ打ちくらいかもしれないって思つて……」

「試しに行つてみたら、思いのほか楽しかったんですよ。江戸時代、夫が自分を捨てて新しい女の家に走つたら、品を片手に打ちこわしに行く。後妻打ち」という風習があったとか、非日常の面白い話を学生時代のように、熱心に聞いてノートをとっていたら心のモヤモヤが少し解消されたような気がしました」（福田さん）

さらに年を重ねると、より深く学ぶということに對峙するようになる。奈良大学（奈良市）で仏教の公開講座を受ける武藤さとしさん（81才・仮名）は、「夫にDVを受けた私を癒してくれたのは、仏教の勉強だった」と打ち明ける。

「旦那は趣味もなくて、家庭も私に任せっぱなしだった。仕事ばかりの人間から名刺がなくなつたら、友達といえる人がいなくなつたんです。でも私はフラダンスを習つていたし、自治会のつきあいに顔を出すこともありました。それがいやになり、悔しかったんだと思います。ちよっとずつ私に暴言を吐くようになって、物を投げたり手が出たりするようになったんです」

夫の暴力に耐えられなくなった武藤さんは、自宅を離れて奈良で働く息子のもとに身を寄せた。

ことについて、「それは本当なんですか」「どういう意味ですか」と鋭い質問が飛んでます」

授業によっては、現役の学生と一緒に学ぶものもある。同大学事務室の足立直さんは「そんな時、教室の最前列はセカンドステージの受講生が積極的に座るので、学生たち

から最前列は「シルバースイート」と呼ばれているんですよ」と笑つて明かす。

そして学ぶことに積極的な彼らは、現役世代と違って、休講と聞くとガッカリする。前出の香山さんが言う。

「以前、私の都合で1時間早く授業を終えなければならぬという時があり、「課題を出してやっておいてください」とお願いしたことがありました。若い学生ならラッキーという感じならフキーンという感じならしょうが、「1時間分の補講をしてほしい」という要望が多く熱心さと学びたいという熱意に感服しました」

そういう受講生側の字が姿勢に、教える側という立場にありながら日々字ばされていく面もあると香山さん。「なぜそうなのか」といった根拠を質問されたことも多いので、参考文獻を用意するなど入念な準備が必要になります。また、初めは久しぶりの勉強で、授業を受けてもつづればいいかわからなかった人が、しっかりと論文を書くようになってきます。年齢に関係なく成長されていく、本格的な大



内藤氏が14~15年まで通った講座で取ったノート。学び直して知り合った友人たちとノートを見せ合うことも。

から最前列は「シルバースイート」と呼ばれているんですよ」と笑つて明かす。

「試みに行つてみたら、思いのほか楽しかったんですよ。江戸時代、夫が自分を捨てて新しい女の家に走つたら、品を片手に打ちこわしに行く。後妻打ち」という風習があったとか、非日常の面白い話を学生時代のように、熱心に聞いてノートをとっていたら心のモヤモヤが少し解消されたような気がしました」（福田さん）

さらに年を重ねると、より深く学ぶということに對峙するようになる。奈良大学（奈良市）で仏教の公開講座を受ける武藤さとしさん（81才・仮名）は、「夫にDVを受けた私を癒してくれたのは、仏教の勉強だった」と打ち明ける。

「私には孫もいるし、旦那は大手建設会社の社員だったから、はたから見ると幸せな人生に思えたかもしれませんが、でも、母でもなく、妻でもなく、ばあばでもない、武藤さとしさんという個人の人生は何なのか、って。その答えを、仏像の中に、そして大学で学ぶというなかで探しているのかもしれないですな」



内藤氏が14~15年まで通った講座で取ったノート。学び直して知り合った友人たちとノートを見せ合うことも。

から最前列は「シルバースイート」と呼ばれているんですよ」と笑つて明かす。

「試みに行つてみたら、思いのほか楽しかったんですよ。江戸時代、夫が自分を捨てて新しい女の家に走つたら、品を片手に打ちこわしに行く。後妻打ち」という風習があったとか、非日常の面白い話を学生時代のように、熱心に聞いてノートをとっていたら心のモヤモヤが少し解消されたような気がしました」（福田さん）

さらに年を重ねると、より深く学ぶということに對峙するようになる。奈良大学（奈良市）で仏教の公開講座を受ける武藤さとしさん（81才・仮名）は、「夫にDVを受けた私を癒してくれたのは、仏教の勉強だった」と打ち明ける。

「私には孫もいるし、旦那は大手建設会社の社員だったから、はたから見ると幸せな人生に思えたかもしれませんが、でも、母でもなく、妻でもなく、ばあばでもない、武藤さとしさんという個人の人生は何なのか、って。その答えを、仏像の中に、そして大学で学ぶというなかで探しているのかもしれないですな」

大学で学ぶと脳に効く！

私たちが歳をとるにつれて、脳力は4つあるといわれています。それは「取り込み力」、「理解力」、「表現力」、「そして「ひらめき力」。

「7年前、旦那が倒れて亡くなりました。こんなことを言つてはいけません。こんなことを言つてはいいじゃないかとわかってはいますが、神様が私に与えてくれた最後のチャンスだと思つたんです。それからすぐに資料を取り寄せて、公開講座に申し込みました」

「私には孫もいるし、旦那は大手建設会社の社員だったから、はたから見ると幸せな人生に思えたかもしれませんが、でも、母でもなく、妻でもなく、ばあばでもない、武藤さとしさんという個人の人生は何なのか、って。その答えを、仏像の中に、そして大学で学ぶというなかで探しているのかもしれないですな」

「休講にブーイング」最前列は「シルバースイート」学び直しの熱意に感服

立教大学（東京・豊島区）で教鞭を執る精神科医の香山リカさんは、現役の学生を相手にする時とは全く違う緊張感があるという。

「立教大学では「立教セカンドステージ大学」という名前前で50代以上で勉強を直したい生徒を受け入れています。彼らの中に授業に遅れる人、

ギリギリに入塾する人はいます。それに、若い学生はわりと教員の言うことをうのみしがちですが、中高年の受講生からは、こちらが話した

「学び直しの」の後、教える側に戻った人もいます。斎須孝恵子さん（71才）は、「教える」というのは結局、自分のためだとわかつた」と話す。

「00年頃は、日本は韓流ブームに沸いて。韓国ドラマ『冬のソナタ』が大ヒットし、ヨン様全盛期のころ、斎須さんは韓国にハマりました。07年に夫に勧められて国士館大学（東京・世田谷区）の韓国語講座を「入門」初級「中級」と1年間受講したが、「上級」がなかったため、さらに学びたいと思つた斎須さんは、近くの区民会館を借り、そこに自ら講師を招いて講座を開いた。そしてその間、先生の手伝いとして補講を開き、発音や文法のわからない生徒を教えていた。

「教えるというわけで、自分の立場が上になるわけではありませぬ。人様に間違つたことを教えられるので、この言葉はどう使えばいいのかと、多